



東海那珂ロータリークラブ会報

2023-24年度クラブスローガン「みんなの力で再出発」



<本日の例会(第1651回)>

2024年5月15日(水)
職業奉仕委員会・親睦活動委員会合同開催
首都圏外郭放水路見学会(埼玉県春日部市)

<次回例会(第1652回)>

2024年5月22日(水)
18:30~19:30 次期クラブ協議会(1)

報告 第1650回例会 2024年5月8日(水)

12:30-13:30 於 ホテルクリスタルパレス

◎今月のお祝い

親睦活動委員会 大越 正彦委員長

<会員誕生日>

猪股 真純会員

鈴木 正人会員

<ご夫人誕生日>

鶴田 哲男会員(久子様)

浅川 清司会員(百世様)

清水 繁会員(利子様)

高橋 昭会員(サチ子様)

大牟田弘文会員(恵子様)



◎幹事報告

佐藤 広道幹事

1. 地区補助金事業「チルドレンズホーム鉄棒設置及びバスケットコート整地工事」が終了いたしました。工事終了後の写真等を回覧いたします。ご確認ください。
2. 台湾東部地震への支援金について
(第2820地区では花蓮県にある第3490地区に支援金を送ることを決定しました)
各クラブ1人あたり1,000円の支援要請がありました。会費にて支出いたします。
1/1付会員数 32名×1,000円=32,000円
3. 第2回会長幹事会が6月1日に水戸京成ホテルにて開催されます。
橋本会長、佐藤幹事の2名出席いたします。
4. 令和6年度青少年育成東海村民会議賛助会員会費の納入について
賛助会員会費 2口(10,000円)納入します。
同じく、東海村姉妹都市交流協議会会費納入について賛助会員会費 10,000円納入します。
5. 5月22日(水)18:30~の次期クラブ協議会(1)は4月に行われた24-25DTAの報告会です。該当する各委員長さんは発表原稿を5月15日までにクラブ会報委員会(猪股委員長)までご提出をお願いします。
6. 本日(5/8)の茨城新聞のロータリー情報館に当クラブの「ロータリーの森清掃」記事が掲載されています。ご一読ください。

◎出席報告

出席委員会 石井 秀明委員

会員数 33人
出席免除者数 5人(うち出席者数3人)
対象会員数 31人
出席者数 22人
欠席者数 9人
出席率 70.97%

<出席免除会員氏名>

※下線は例会出席者

清宮 武雄会員、高橋 昭会員、中井 英一郎会員、
大部 泉会員、瀬谷 利雄会員

◎ニコニコボックス報告

ニコニコボックス委員会 鈴木 正人副委員長

橋本 壽郎会長:佐々木会員本日の卓話宜しくお願
いします。
清水 繁会員:家内の誕生日 ありがとうございます
です。
佐藤 広道幹事:佐々木会員 本日の卓話宜しくお願
い致します。
浅川 清司会員:妻の誕生日祝い ありがとうございます
でした。すっかり忘れていました。
高橋 昭会員:妻の誕生日祝いありがとうございます。
5月31日が誕生日です。
猪股 真純会員:誕生日プレゼント ありがとうございます
です。前歯を失い、ボンコツ度が増
しています。
木戸 俊哉会員:佐々木会員 本日の卓話 宜しくお
願いします。
佐々木良一会員:本日は、つたない話ですが、よろしく
お願いします。
大牟田弘文会員:昨年の5月8日にコロナが第5類と
なって早1年、すっかり以前の生活
に戻りましたが、引き続き感染予防
に心がけましょう。

◎委員会報告

ロータリーの友5月号の見どころ紹介

広報・史料委員会 木戸 俊哉副委員長

5月号は、特集が3つ組まれています。1つ目は「青少年奉仕月
間」に因んで、2つの地区のRYLA
セミナーの様子が紹介されてい
ます。

うち1つは、第2820地区が昨
年12月に水戸市少年自然の家で





行った「VUCA の時代をどう生きるか」です。1泊2日での研修の様子がよく分ります。

2つ目は、野生型ポリオが残る2か国のうちの1つ、パキスタンの現地情報やポリオ対策の現状などの報告。3つ目は、「応援します！能登」で、能登半島地震への12クラブの支援活動が掲載されています。

縦書きページでは、福井県の小浜水産高校の先生が、生徒と共に、地元ロータリーの支援などを受けつつ、地元水産業に貢献し、廃校寸前の高校を立て直したお話などが紹介されています。是非ご一読ください。

新入会員卓話

「原子力のバックエンドのご紹介」

佐々木 良一 会員（2024年4月1日入会）

東海那珂ロータリークラブには、原子燃料の製造、原子力発電所の運転、原子力事業にかかわる研究開発など原子力関連事業に従事する会員が何人もいます。本日の卓話者、佐々木良一会員もその一人です。

原子燃料サイクルには、原子燃料の製造、原子力発電所の運転などフロントエンドと言われる分野と、放射性廃棄物の処理処分、使用済み燃料の再処理、原子力関連設備の廃止措置などバックエンドと言われる分野がありますが、佐々木会員のお仕事は、バックエンド、具体的には、被ばく線量評価、地下水中の物質移行・化学反応強化、遮蔽・臨界安全、施設の耐震安全性などの研究開発です。

佐々木会員が高校生のときにチェルノブイリ原子力発電所事故が発生、マスコミが原子力についてこぞって取り上げていましたが、佐々木会員は、資源の少ない日本にとって

原子力発電はなくてはならないものと考え、自ずと原子力を志すようになったそうです。

そして、三菱マテリアル株式会社に就職して4年目のときに、JCO 臨界事故が発生しました。佐々木会員は、わが国で臨界事故が起こるなど想像もできず、マスコミの速報を誤報に違いないと思ったそうですが、それが事実と知り、原子力に絶対安全はない、原子力災害対策を具体化しておくことが必要と、強く自覚したといひます。

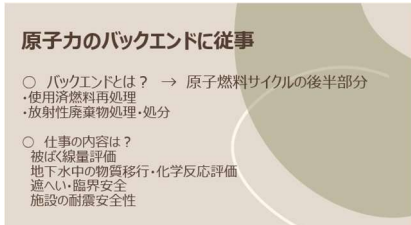
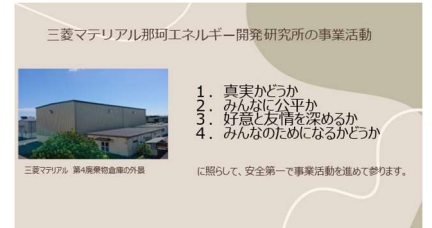
当時、佐々木会員は科学技術庁に出向されており、この事故を踏まえた原子力災害対策特別措置法の法

整備に関わる機会を得ました。これにより、放射線漏洩時の通報連絡、原子力施設が重大な状況になったときの緊急事態宣言など、原子力災害時における対応が決められたということです。

こうして法整備ができたわけですが、佐々木会員としては、これを用いるような事態は自分が生きている間にはあり得ないだろうと思ったとのこと。しかし、それから約10年で大津波によって福島第一原子力発電所事故が発生、福島第二においても重大な状況になってしまったわけです。このときも、まさに想像を絶する出来事だったと振り返ります。「原子力に関わってきた技術者として、どう貢献していくかを考えましたし、会社としても除染など復興に向けた対応の仕事に取り組むことになりました」

「自分自身が原子力の当事者であり、勤務する三菱マテリアル那珂エネルギー研究所が安全に事業活動を行っていかねばならない。廃棄物なども安全に管理し、最後は当然ながら安全に処分しなければならない」と佐々木会員は続けます。「真実かどうか」、「みんなに公平か」、「好意と友情を深めるか」、「みんなのためになるかどうか」四つのテストの一つひとつを自らの業務に照らしながら、これを念頭に置いて安全第一で事業を進めて参りたいと卓話を締めくくられました。

なお、卓話の中では、原子力にかかわる種々の取り組みについて。具体的には、原子燃料サイクル、高レベル廃棄物の処分、使用済み燃料の再処理、放射性廃棄物(低レベル、高レベル)の処分、高レベル廃棄物の処分における候補地の選定と現状、低レベル廃棄物の処分の実例などについてポイントを整理して解説してくださいました。もう少し知りたいという方は、佐々木会員にお声がけください。



東海那珂ロータリークラブ

事務所

〒311-0103
茨城県那珂市横堀 1721-6 常陸環境株式会社
電話090-7517-2473
E-mail tokainakarotary@gmail.com

例会場

〒312-0023
茨城県ひたちなか市大平 1-22-1 ホテルクリスタパレス
電話 029-273-7711



ホームページ



Facebook